

入学者126名(9.8%)、22年度88名(6.8%)、23年度58名(4.5%)で、このうち、罹患歴があっても最近のワクチン接種を受けた者は、平成21年度入学者104名(82.5%)、22年度72名(81.8%)、23年度51名(87.9%)であった。

#### 4. 考 察

WHOは2012年までに日本を含む西太平洋地域から麻疹を排除する目標を定めており、これが達成される指標の一つに2回のワクチン接種率が95%以上であることが挙げられているが<sup>3)</sup>、わが国の麻疹ワクチン接種率は、第1期～第4期のいずれも目標に遠く及ばない状況である<sup>4, 5)</sup>。

本学では、学生および教・職員のほぼ全員が、麻疹に対して免疫を有すると推測できる状況になっているが、これは、ワクチン接種歴や抗体検査陽性の証明をなかば強制的に提出させた結果として得られたものである。第4期および第3期の接種率を上げるためには、大学や高校が新入学生に対してワクチン接種歴や抗体検査陽性の証明の提出を求める措置が有効であることは、本学の状況を見るまでもなく明らかである。本学の合格発表後にワクチンを接種した者は、もし本学以外の大学に入学していれば今回のワクチン接種を受けなかった可能性を否定できない。多くの大学および高校がこうした証明提出を求めるようになれば、第4期、第3期だけでなく第1期、第2期の接種率向上にもつながると思われる。

こうした措置以上にワクチン接種の強い動機付けになると考えられるのは、実際の麻疹の流行である。高校3年時に無料でワクチン接種を受けられるにもかかわらず、あえて高校2年時までにはワクチン接種を受けた者は、平成21年度は新入学生の1.2%であったものが22年度は6.7%に増え、23年度は9.3%に及んだ。また、21年度と22年度は高校2年時に接種した者が大半で、修学旅行に安心して行きたいという

思いが要因のひとつと考えられたが、23年度新入学生では高校1年時の平成20年に接種した者が半数以上を占め、平成19年、20年と2年連続で麻疹が流行したことが早めのワクチン接種を促したと考えられる。

しかしながら、流行が沈静化している時期にこそ、ワクチン接種率を上げ、免疫保有率を上げておかなければいけないのは言うまでもない。本学の新入生においては、最近のワクチン接種を受けずに抗体検査結果のみを提出する者の割合は年々低下しており、また、麻疹罹患歴ありと申告した者でも大半は第4期のワクチン接種を受けていることから、ワクチン接種の奨励を受け入れる下地はできつつあるのではないかと筆者は考えている。大学や高校の入学要件とすることのほかに、厚生労働省、文部科学省をはじめとする公の機関がさらに有効な手だてを示してくれることを切に望む。

#### 5. 結 語

実際の麻疹の流行は、ワクチン接種の強い動機付けになったと考えられるが、流行が沈静化している時期にこそ、ワクチン接種率を上げるための積極的な方策が必要である。

#### 文 献

- 1) 羽賀将衛, 山崎朋子, 甲嶋光子, 他. 今春の本学における麻疹の流行. 北海道医報. 2008;1083:40-41.
- 2) 羽賀将衛, 山崎朋子, 三上麻紀, 他. 本学における麻疹排除への取り組み. 北海道教育大学紀要(自然科学編). 2009;61(2):1-6.
- 3) 国立感染症研究所感染症情報センター. 病原微生物検出情報(IASR)月報. 2007;28(9).
- 4) 厚生労働省. 平成20年度麻しん風しん予防接種(第1期～第4期)実施状況.
- 5) 厚生労働省. 平成21年度麻しん風しん予防接種(第1期～第4期)実施状況.

## 電子メールによる会員への情報提供について

— メールアドレスの登録 —

### ◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様に送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

#### ●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：[add@m.doui.jp](mailto:add@m.doui.jp)